

# たがまつの森

港区立高松中学校 学校だより 2月号

令和8年2月17日 校長 大島 一浩

創立1949年（昭和24年） 高松中学校は今年度で76周年を迎えました。

## 教養の芽

立春を過ぎ、暦の上では春を迎えてます。今月は本校の「学校図書館」について紹介します。

本校の学校図書館は普通教室の2倍以上ある空間に、蔵書が約21,000冊、毎日20~60人の生徒が授業の合間や昼休みなどの時間に利用しています。そしてここには、学校司書および学校図書支援員といった専門性の高い方が常駐し、読書の相談に乗ってくれたり、一緒に本を探してくれたり、調べ学習のアドバイスをしてくれたりしながら毎日開館されています。

先月は本校の生徒会月間でした。本校生徒会の各専門委員会がそれぞれ特別な取組をする一ヶ月でした。図書委員会では、新しい年の始まりということで「おみくじ」を作り、図書館を利用した生徒に引いて楽しんでもらえるような企画を考え、実施しました。

また、学校図書館からの情報や図書委員会が面白そうな本を紹介する「学校図書館だより」や「図書委員会だより」が毎月発行されています。放課後に映画上映会も行われることがあります。

館内には、季節や行事、社会のニュースだけでなく、各教科の授業や学年の取組を、いち早く感知してもらった上でのさまざまな特集コーナーが頻繁に更新され、訪れるたびに新しい発見があります。先日、本校敷地内でなんとタヌキが目撃されました。森の中へ逃げ込んだところをみると、本校の森にはどうやらタヌキが生息しているようです。すると数日後には、図書館の一角に関連本を集めた「たぬきコーナー」が早速できていました。

インターネットにある情報は、個人の判断で誰でもアップロードすることが可能で、簡単に情報を提供できます。間違っていたら訂正もすぐにできます。その点「本」は、発行されてしまえば訂正是できません。だから「本」は、一冊を発行するまでに多くの人が手間をかけながら何回も読み直し、間違いないと判断されてから、印刷製本されるので、より確実な情報からできているはずです。学校では、調べ学習の課題などは、インターネットからだけでなく、「本」も含めて複数の資料を読み比べて判断することの重要性を説いています。

「本」を読むことは、「言葉の豊かさ」に触れるとともに、動物、自然、社会、文化などについて実生活の中だけでは知ることのできない広い世界に触れることができます。これが生徒にとって将来の「教養の芽」になることを信じています。



学校図書館内のようにすと一角にできた「たぬき」のコーナー



港区立高松中学校 X (旧 Twitter)  
学校生活のようすなどを X にて発信しています。  
学校 HP の学校ブログと合わせてご覧ください。